

## 開析谷の横断方向における堆積相の分布と粒度組成・C/N比：中川低地の沖積層の例

### Sedimentary facies, grain size distributions and C/N ratios in transverse direction of incised valley under the Nakagawa Lowland

# 江藤 稚佳子 [1]; 石原 与四郎 [2]; 田辺 晋 [3]; 中西 利典 [4]; 中島 礼 [3]; 木村 克己 [5]

# Chikako Eto[1]; Yoshiro Ishihara[2]; Susumu Tanabe[3]; Toshimichi Nakanishi[4]; Rei Nakashima[3]; Katsumi Kimura[5]

[1] 朝日航洋; [2] 福岡大・理; [3] 産総研・地質情報; [4] 土木研・推本; [5] 産総研・地質情報

[1] AAC; [2] Fukuoka Univ.; [3] GSJ, AIST; [4] PWRI; [5] GSJ,AIST

埼玉県東部の中川低地の地下には、最終氷期最盛期までに海水準の低下によって形成された開析谷とそれを充填する沖積層が分布している。この地域の沖積層は、層序ボーリングコアの堆積相解析と放射性炭素年代値に基づき、下位から網状河川システム、蛇行河川システム、エスチュアリーシステム、デルタシステムに区分されることが明らかにされている（石原，2004；木村ほか，2006）。本研究では（独）産業技術総合研究所の都市地質研究プロジェクト（木村，2004）において、中川低地で掘削された3本の層序ボーリングコアを用いて、開析谷のとくに横断方向における埋積過程を検討した。3本の層序ボーリングコアは、それぞれ開析谷の右岸（GS-SK-1）、中軸部（GS-MHI-1）、左岸（GS-MUS-1）において1～1.5km間隔で掘削されている。開析谷の横断方向の埋積過程の検討には、堆積相の側方への対比と堆積物の粒度分析、泥質堆積物のC/N比測定を行った。その結果、開析谷の横断方向における非対称的な埋積過程とそれに対応する粒度組成やC/N比の変化が明らかになった。海進期の蛇行河川システムからエスチュアリーシステムにおいては、上方細粒化とC/N比の減少、高海水準期から海退期のデルタシステムにおいては、上方粗粒化とC/N比の増加が示されたので、その詳細について報告する。